

尼崎市立若葉小学校
 平成２３年度
 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員 ３名
 育友会長・副会長

学校：校長、教頭

開催：第１回 平成２３年６月１日（水）
 午後６時～８時
 若葉小学校 校長室
 第２回 平成２４年３月６日（火）
 午後６時～８時
 若葉小学校 校長室

- 1
 教育目標・めざす子ども像
 わ：若い芽を伸ばす子（強い体）
 か：考えを深め合う子（強い頭脳）
 ば：場を美しく、心豊かな子（強い心）
- 2
 めざす学校像
 ・わくわく心がはずむ楽しい学校
 ・学習の基礎・基本をしっかり学習できる学校
 ・地域の人々に親しまれる学校
- 3
 めざす教師像
 ・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師
 ・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師
 ・家庭と地域に信頼される教師
- 4
 本年度の重点取組
 (1) 学力の向上
 (2) 豊かな人間性の向上
 (3) 健康の増進と体力の向上
 (4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校

- 5
 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）
 自己評価の基準
 4：十分達成できた
 3：達成できた
 2：取り組んでいるが、成果が十分でない
 1：取組が不十分である
 関係者評価の基準
 4：よく取り組んでおり、成果が大きい
 3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
 2：取り組んでいるが成果が十分ではない
 1：取組が不十分である
- (1)
 学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
詳細な学力分析とそれに基づく実践 滑らかな成長につながる校種間の連携 家庭学習の習慣化 教員の指導力の向上 ひとりひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	・市学力テストの分析をし、過去３年間の本校の特徴等を分析。 ・他市先進校の小中学校から講師を招聘し、夏期休業中に３校合同で小中連携推進の学習会を実施。 ・家庭学習の定着。最後までやりきることを全職員で共通理解し、放課後学習も週２回実施。 ・小規模校の特性を生かし、特別な支援の必要な児童を全教職員が理解し、毎月の職員会議、特別支援推進委員会での情報交換。 ・全教員が年１回以上の研究授業を公開し、必ず、事後研究会を持ち、学びを共有。	・市学力テストの詳細な分析結果元に、学校全体としての方向性を全職員で共通理解できた。欠けている学習規律や意識づくりに努め、理解度と好き嫌いに大きく劣る理科と算数を重点的に取り組めた。 ・夏期休業中に、全教員による小中連携研修後、今年初めて、互いにオープンスクールで授業参観ができた。 ・小規模校の特性を生かし、特別な支援の必要な児童を全教職員が理解し、毎月の職員会議、特別支援推進委員会での情報交換で対応してきたが、３０日以上の不登校児童が２名出た。 ・全教員が研究授業を公開し、全て事後研究会を持ち、学びを共有できた。	2. 5	・市学力テストの分析結果を夏期休業中に実施し、全職員による共通理解で指導にあたる。 ・中学校との授業参観を全校態勢で実施する。 ・宿題忘れなどは、保護者への協力を求め、教師があきらめないで指導する。 ・特別な支援の必要な児童については、保護者を含め、全校体制での声かけを行う。	・夏休みの補充学習や放課後学習など学校の努力は評価できる。 ・学力は全体的に低いが、基本の国語が全国・市平均とほぼ同じであることは評価できる。 ・尼崎市もそうだが、算数面での学力の低さが気になる。課題は多くあり、算数の成果を求められる。 ・講師招聘による研修会、放課後学習の週２回の実施、オープンスクールでの授業参観など、学校の努力を評価する。 （関係者評価：2. 9）

- (2)
 心の安定を図るとともに、規範意識を育み良好な人間関係づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
命の大切さを中心とした道德性の涵養とよりよい人間関係の構築 基本的生活習慣の確立と情報モラル等の指導の充実 相談体制と長欠者の指導の充実 進路指導の充実	・道德年間計画の見直し。全学年一斉に道德（人権）参観授業を実施。 ・校門でのあいさつ指導を全教員で実施し、生徒指導部を中心に名札、靴箱、ハンカチの携帯を指導。 ・教師自らの規範意識を確立。 ・男女を問わず「さん」付けて呼び、人権感覚を育み、学校生活のあらゆる場面でのコミュニケーション能力の向上を図り、よりよい学級集団づくりに努める。 ・情報モラルや情報安全に関する指導体制を組み、携帯電話などの使用について保護者の理解と協力を求める。	・１１月のオープンスクールで全学年が道德（人権）参観授業を実施し、懇談会で道德の授業について説明できた。 ・あいさつ、名札、靴箱、ハンカチの携帯に改善が見られた。 ・学校生活のあらゆる場面でのコミュニケーション能力の向上を図り、よりよい学級集団づくりに努めた。 ・職員の情報モラルや情報安全に関する研修会をもち、教師の規範意識が高まった。 ・集会活動で、１年を通して１～６年の縦割りグループの活動ができ、異年齢の助け合える関係を作れた。 ・保護者評価で、学校への気軽な相談の項目が低かった。 ・「さん」付けが不徹底であった。	2. 5	・啓明中のスクールカウンセラーを月１回、定期的に配置する。 ・今後も異年齢集団を、給食交流や遊びなどに生かす。 ・教師自らが率先して、「さん」付けで呼び、教師が互いに注意しあい、自らの人権感覚を磨く。 ・来校した保護者への温かい声かけ等、保護者が相談しやすい（保護者の方から声を掛けやすい）雰囲気、体制をつくる。 ・今後も、児童の欠席状態や理由の把握に努め、早期対応に心がける。	・若葉小の児童は、明るくあいさつのできる子が多い。 ・常識の指導ではあるが、あいさつや身の回りの整理等、継続しての指導を願う。 ・授業の開始・終了時、「起立・礼」だけでなく、「お願いします・ありがとうございました」など、言葉でのあいさつが必要。 ・コミュニケーション能力は、どんな時でもある。育成に力を注いでほしい。 ・長期欠席児童は、その理由をしっかりと把握しての対応を望む。 （関係者評価：2. 8）

(3)健康の増進と体力の向上を図る

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
望ましい生活習慣の育成	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動の啓発。 ・食育の全体計画、指導計画の作成、実践。 ・うがい・手洗い・咳エチケットの奨励。 ・家庭と協力して、児童自らの体や健康について関心を持たせ、健康の増進や体力向上を図る。 ・業間休憩、昼休み時に外遊びを奨励。	・生活実態調査では、昨年度と比較し、「朝ごはん」は変化なし。「早寝・早起き」の割合が低くなっている。 ・校内給食週間で食と健康についての意識を高めた。 ・保健部で、全学年を対象に禁煙教育を実施したが、児童の実態とそぐわなかった。	2. 5	・経年比較をして検討する。 ・学校としての様々な取り組みは、児童の実態を踏まえて計画し、成果を検証する。 ・わかばギネスの継続。縄跳び補助ボードの製作など。 ・学校保健委員会の活性化を図る。	・家庭でのしつけであるが、「早寝・早起き・朝ごはん」「うがい・手洗い・咳エチケット」などの生活習慣は大事な事。学校からも、常に訴えかけてほしい。 ・健康のための運動啓発を持続して行ってほしい。 ・青少年健全育成での携帯電話に関する啓発幟も活用してほしい。 (関係者評価：2. 9)
健康の増進と体力の向上					

(4)保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
登下校の安全確保の取組の充実と校内の安全	・地域見守り隊の協力を得て、登下校時の安全を確保。 ・校内防犯訓練を実施し、危機管理意識の向上を図る。 ・学校日より、校門外掲示板、HPなどで、常に本校の教育活動についての情報発信。 ・学校関係者評価委員会を年度末だけでなく、年度初めにも開催。 ・学校行事毎に保護者アンケートを取り、目標の具現化が図れているか検証。 ・1人1人の教職員が、絶えず自己研鑽に励むことができるように支援。	・地域見守り隊の協力を得て、登下校時の安全、校門の施錠システム、安全管理員を有効に使って、校内の安全が確保できた。 ・火災・地震の避難訓練、防犯訓練（職員）を通して意識付けができた。 ・学校日より、校門外掲示板、HPなどで、常に本校の教育活動についての情報を発信できた。 ・学校関係者評価委員会を年度初め・年度末の2回実施できた。 ・学校行事等の保護者アンケートを実施し、学校評価アンケートの回収率は85％（昨年度71％）。 ・日々の仕事に追われ、研修会への参加が少なかった。	3. 0	・「1.17は忘れない」地域防災訓練の地域への幅広い参加を呼びかける。 ・保護者アンケートを無記名にしていたが、記名にして責任ある評価を求める。 ・研修会、研究会への参加態勢を組む。 ・オープンスクールの土曜日開催を実施。 ・学校評価の保護者からの要望にあった、児童の登下校を知らせるサービスの導入について、検討する。 ・朝の登校あいさつ当番（育友会活動）の活性化を図る。 ・地域人材の発掘・活用。	・地域の行事への参加、地域防犯など地域の課題も多くある。 ・何をもって「地域に信頼」かわからないが、学校のことをもっと発信したり、アピールする必要がある。 ・大きな災害等があった場合は、やはり学校の安全性は信頼されている。 ・保護者のあり方が気になる。積極的に子どもや学校と関わっている場合とそうでない場合の差がある。 (関係者評価：3. 0)
学校評価の充実					
開かれた学校づくりの推進					
教職員の自己研鑽					

(5)教育目標

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	・教育目標は全職員に説明し、保護者や地域へも学校日より、HPで知らせた。 ・児童の学力向上、生徒指導に生かすために、加配教員の配置を工夫した。 ・兵庫型教科担任制を導入し、5・6年生の理科と算数で教科担任制を実施。	・教育方針の保護者への浸透度がアップした。 ・行事毎に保護者アンケートで目標の具現化が図れているか検証できた。 ・新学習システム教員、クリエイティブ加配教員、主幹教諭マネジメント加配教員を活用し、児童の学力向上、生徒指導に生かすことができた。 ・5・6年生の理科と算数の兵庫型教科担任制で、児童の理科好きが増えた。	3. 0	・教育目標達成のために、PDCAサイクルに則って、計画的に継続して指導を行っていく。 ・学習時間以外の場での指導も含め、1人1人の教職員が教育目標を具現化し、日々の指導の基盤におくよう、心がける。 ・今後も兵庫型教科担任制の良さを生かした指導方法を探っていく。	・教育目標が難しい。テーマが広すぎるので、絞り込む必要がある。 ・目標達成のためのPDCAサイクルができていない。これができていれば、大丈夫だと思う。 (関係者評価：3. 0)
教育目標の具現化と指導の充実					

(6)研究テーマ

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	・「伝え合う力」をテーマに、全教科を通して言語活動の充実を図った。 ・今年度も継続して、単元学習を通しての研究を実施。 ・今年度も、全学年で若葉タイム（朝学習）での音読、読書を取り入れる。	・国語科以外の教科でも研究授業を実施できた。 ・単元学習を通しての研究が、児童の学力向上に効果を上げられるよう、また、教師の指導力向上を図ることができるように、継続を大事にしている。 ・児童会選挙の応援演説会で、はきはき堂々と自分の考えを述べるできていた。	2. 5	・学習以外での児童の活動に、「伝え合う力」が発揮できるような取り組みを実施。 ・保健や音楽等でも、校内研究テーマを意識し、全校・全職員態勢で取り組む。	・「伝え合う力の育成」は、社会にでも通用する大事なテーマである。 ・国語以外の教科や児童の様々な活動にも、その力が波及しているところが評価できる。 (関係者評価：3. 0)
研究テーマの具現化と指導の充実					

※ その他の評価項目 (A：優れている B：適切である C：おおむね適切である D：要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	C
自己評価の結果の内容は適切か	C
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B

※ その他、学校関係者評価委員の方々から、次のようなご意見もいただきました。

- ① 昨年度の学校関係者評価委員会を踏まえ、今年度は年度初めにも学校関係者評価委員会をもち、「学校教育目標」「重点取組項目」「学校行事」などの説明があったので、1年間を見て、評価がしやすかった。
- ② 市教委からの学校評価様式では記載文字が小さすぎるという意見があったので、拡大して印刷したものを資料として届けられ、読みやすかった。